

驚嘆すべき大ボーリング機

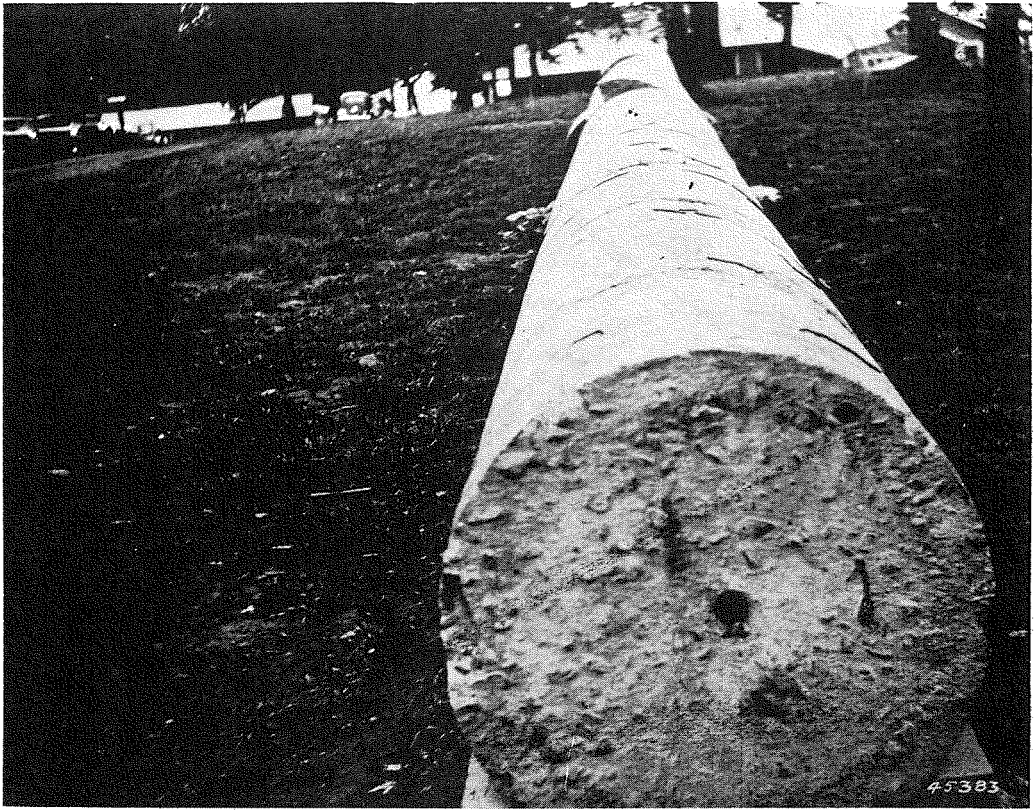


大震災に遭つた石の大鳥居?のやうに見えるこの寫眞は米國インゲーソルランド會社が、最初ホルダー・ダムの混凝土試験材を採取する目的で製作し、次で炭坑等の通風堅坑開鑿に利用せられ、様になつた60吋コア採取試験機によりて採られたコアの偉觀を示すものである。

地下の寶庫を探る試験機にも次から次へと新しい使命が課せられ來た、從來のダイヤモンド試験機では精々2吋乃至3吋位のコア抽出が關の山であつたが、インゲーソルランド會社がカリツクス機を作つてから10吋はおろか20吋のコアも容易に採取し得る様になり地質調査の領域から、ダムの混凝土強度試験には勿論各種混凝土構造物の試験材採取または根掘採等一般土木方面に進出するに至り、更に

36吋のコア機が出現してスレート工業界に貢献する處重大であつたが、更に驚く可きことには60吋コア機用1,000呎機が生れ、炭坑の通風堅坑開鑿に一新紀元を劃し、遂に貴重なる人命の保護と寶庫の開發に新しい道を拓くに至つた。將に試験機から掘下機への一大躍進である。

本機は上の寫眞に示す如く捲作業式で125馬力の電動機で運轉し別に25馬力のコア捲揚機がついてゐる。掘進記録は硬岩に對し掘進毎賃時當り10吋乃至20吋平均で最近のニュースでは豫定深度1,130呎の掘下げに對し既に1,074呎の開鑿を了へ餘すところ僅々60呎と云はれてゐる、次頁上の寫眞はダムから採取された60吋直徑コア(コンクリート)の偉觀、下は炭層を示すコアの斷片である。



直  
徑  
60  
吋  
コ  
ア  
ー  
の  
偉  
觀